

平成 2 8 年度予算編成方針

平成 2 7 年 1 2 月 3 日

苓北町長 田嶋 章二

1 . 日本経済の状況及び地方財政

政府が作成した「経済財政運営と改革の基本方針 2 0 1 5」(以下、「骨太 2 0 1 5」という。)では、三本の矢からなるアベノミクスの一体的な推進等により、日本経済はマクロ・ミクロ両面でおよそ四半世紀ぶりの良好な状況を達成しつつあり、「デフレ脱却・経済再生」と「財政健全化」は双方ともに大きく前進したとしており、今後も中長期的に持続する経済成長を実現するため、経済の好循環の拡大、潜在的な成長力強化、まち・ひと・しごとの創生、さらには、公共サービスの無駄排除と資質の向上等の改革に取り組むことを課題としている。

国の財政については、債務残高が国内総生産(GDP)の 2 倍程度に膨らみ、なおも更なる累増が見込まれるなど引き続き厳しい状況にあり、経済再生とともに財政健全化を達成することを喫緊の課題としている。

一方、地方財政について、骨太 2 0 1 5 では平成 3 0 年度までの地方一般財源総額を平成 2 7 年度地方財政計画の水準を下回らないよう、実質的に同水準を確保するとしているが、別枠加算や歳出特別枠といったリーマンショック後の歳入歳出両面の特別措置について、経済再生に合わせ、危機対応モードから平時モードへの切り替えを進めていくこととしており、また、国・地方を通じた 2 0 2 0 年度の基礎的財政収支(プライマリーバランス)を黒字化することを目標に掲げている。

これに伴う地方財政及び本町財政への影響は不透明な状況であり、自主財源が年々減少する本町においては、今後の国の予算編成及び地方財政対策の動向等によりさらに厳しい財政運営を強いられる可能性がある。

このため、平成 2 8 年予算編成においては、国、県の動向を注視しながら、引き続き環境変化に対応しうる行財政システムの構築に向けて更なる見直しに取り組み、限られた財源の中で、現在策定中の「苓北町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の目標達成に向けた取り組みに努めたい。

2 . 苓北町の財政状況と平成 2 8 年度予算編成

歳入について、本町の自主財源の根幹をなす固定資産税（償却資産分）は年々減少し、また、景気の回復や川内原子力発電所の再稼働に伴う電力関連会社の経営向上が見込めるなど明るい兆しはあるものの、法人税のほか町税収入について急激な増加は見込めない状況である。

さらに、地方交付税についても本年度に実施された国勢調査（人口減少）が大きく基準財政需要額の算定に影響を与えるため、自主財源は減少するものの交付額は本年度と同水準程度と推測される。

次に歳出について、前年度より地方消費税引き上げ分が社会保障四経費の財源として手当てされているものの、高齢者、障害者などへの扶助費や介護保険、後期高齢者医療などの繰出金の増、また、2市1町で組織する天草広域連合の新ごみ処理施設整備に伴う負担金の発生など固定経費（義務的経費）に係る財政需要が多大に見込まれる。

このような状況を踏まえ、平成 2 8 年度予算編成においては別紙「予算編成要領」に基づき、「安心して住める町」、「いきいきと暮らせる町」、「ふるさととよべる町」の基本理念のもと、現在策定中の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の目標達成に向け、予算配分の効率化（選択と集中）と重点化を図ることとし、歳入面では町税等の徴収率の向上、課税の適正化による税収の確保、また、町有財産の有効活用や売却、利用者負担の原則にたった使用料や手数料の公平な設定及び徴収、さらにはふるさと納税制度の充実など新たな収入源の開拓により財源確保に努める。また、歳出面では、町民の視点に立った行政サービスの効率化と簡素化により歳出抑制を図り、最小の経費で最大の効果を発揮できるよう自立性、創造性をもった予算編成に努める。